

健康増進センター広報誌『健康ワンダーランド』です。今回は“腎がん”について取りあげてみました。

「腎がんについて」

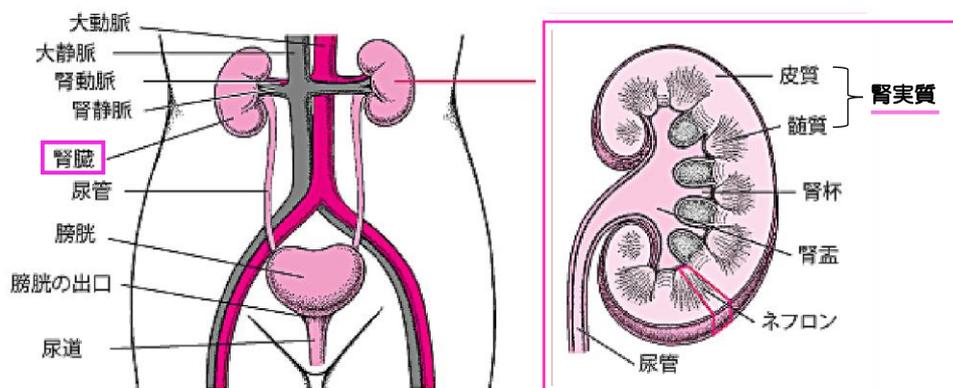
佐世保中央病院 泌尿器科 部長 相良 祐次



● 腎がんとは？

腎臓は大人のこぶしよりやや大きいソラマメのような形をした臓器で、腰背部に左右1個ずつ存在します。腎臓は、血液をろ過して尿をつくり、排泄することで体のなかにたまった老廃物を除去したり、水分や、塩分(ナトリウム)、カリウムなどの量を調節します。ほかにも血圧を調節する、エリスロポイエチンという造血ホルモンを分泌する、ビタミンDを活性化するという重要な働きがあります。

腎臓の構造ですが、腎臓の実質的な働きを担う「腎実質」と腎実質により作られた尿が集まる「腎盂」からできています。腎実質には尿細管という細い管があり、尿細管の中に発生したがんを一般的に腎細胞がん(以下腎がん)と呼びます。「腎盂」をおおっている粘膜からできるがんもあり、同じ腎臓からできるがんですが、腎盂がんと呼ばれ、腎がんとはがんの性質も治療法もまったく異なります。腎がんは50-70歳が好発年齢であり、統計によると2015年の1年間で人口10万人あたり7.9人が新たに発症したことが報告されています。近年、腎がん患者の増加率は上昇しています。



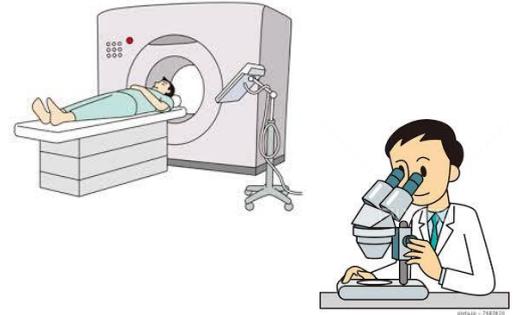
● 腎がんの症状

腎がんには特徴的な症状はありません。特にがんが小さい初期には、無症状であることがほとんどです。そのため近年では、検診での超音波検査やCTにより偶然発見されるケースが増加しています。腎がんの検出に有用な、腫瘍マーカーは存在しないため、血液検査で発見することは困難です。腎がんが進行して大きくなると血尿や腹部のしこり、痛みが出現してきます。「がんがあること」によって副次的な全身症状として、体重減少、発熱、倦怠感、貧血などが現れることがあります。腎がんの4人に1人は肺、リンパ節や骨などに転移が発見されるといわれており、転移巣の進行によっては呼吸困難や骨の痛みといった症状が出現することがあります。

⇒ 次ページへ

● 腎がんの診断と治療フロー

腎がんをより正確に診断するために造影剤を併用したCT検査が有用です。CT検査で診断が難しい場合、腎機能に障害がある場合や造影剤に過敏症がある方はMRI検査を行います。病変の進展や転移を確認するため胸部CT、骨シンチグラフィ、PET検査を施行することもあります。特殊なケースでは皮膚から腫瘍に針を穿刺して組織を採取して顕微鏡下に病理学的診断を行う場合があります。これを組織生検と言います。画像検査の結果により、がんの広がりや進行度などをあらわす病期(ステージ)診断を行います。病期診断は患者さんにとって望ましい治療方針を決定するうえで指標のひとつとなるため重要であり、ステージと患者さんの全身状態を考慮して手術による治療を行うか薬物による治療を先行させるかなどを決定します。



● 腎がんの治療

①外科治療：腎がん治療の基本は手術です。がんのある腎臓ごと切除してとりのぞく「腎摘除術」が一般的です。しかし、最近では人間ドッグや検診などで、がんが小さいうち(一般的には4cm未満)に偶然発見されることが多くなってきました。そのため腎臓からがんの部分のみを切除する「腎部分切除術」を行うことも増えています。このサイズであれば制癌性も担保され、腎の正常部分を残して腎機能が温存されるため、患者さんの利益は大きいことが知られています。腎摘除の方法としては、おなかを小さく切って開けた穴から腹腔鏡を入れて行う腹腔鏡手術、がんが大きすぎる場合や過去に大規模な腹部手術の既往がある場合などは、おなかを大きく切開しておこなう開放手術があります。腎部分切除の方法としてはロボット支援手術(医師が患者さんに直接接触することなく、モニター画面をみながら手術用ロボットを遠隔操作しておこなう方法)や腹腔鏡手術でおこないます。

②薬物療法：手術による治療が困難な場合や手術後の再発や転移に対して、もしくは原発巣に対する手術より転移の治療を優先したほうがいい場合は、薬物療法を行います。腎がんの薬物療法には分子標的治療とがん免疫療法があります。いわゆる従来の抗がん剤は使用しません。

1) 分子標的治療

がん細胞の増殖、(がんが栄養を得るために)新しい血管やリンパ管の形成を引き起こすには特定の遺伝子の産物(タンパク質)が関わっています。このたんぱく質に働きかけて増殖に必要な指令や血管新生を促す指令をブロックすることでがんの進行を抑えます。

2) 免疫療法

i) サイトカイン療法

私たちの体のいろいろな細胞から分泌される生理活性たんぱく質の総称をサイトカインといい「免疫細胞を活性化させる働き」をもつものがあります。インターフェロンやインターロイキン2は、免疫を強めることによりがんを排除する治療です。

⇒ 次ページへ

ii) 免疫チェックポイント阻害薬

「免疫」とは侵入してきた異物（ウイルスや細菌、がん細胞など）を攻撃し体内から排除することで体を守るしくみです。この仕組みを担う細胞の一つにT細胞があります。T細胞はがん細胞を異物として認識して攻撃します。がん細胞にはT細胞の攻撃を止めるスイッチがあり、これを利用して免疫の攻撃をやめさせ、生き延びようとします。こうなると免疫が弱まりがん細胞を体から排除できなくなってしまいます。免疫チェックポイント阻害薬は免疫を弱めようとするスイッチに働き、結果的にがんの妨害をおさえたりT細胞が本来の免疫の働きを取り戻せるようにします。

● おわりに

腎がんの早期発見のためにも検診を受けることをおすすめします。腎がん治療の主体は手術であることは変わりませんが、最近では新しい治療薬の開発がすすんで以前と比べ治療の選択肢が増えています。

◆ ホームページをリニューアルしました！！



本年4月より、当センターの公式サイトが新しくなりました。これまでと比べ、落ち着いた画面配色となり、スマートフォンでもパソコンでも、利用し易いよう、変更させていただきました。多くの方々に関覧いただければ幸いです。

右のQRコードをご登録してアクセスいただければ当センターのサイトへ入ることができます。

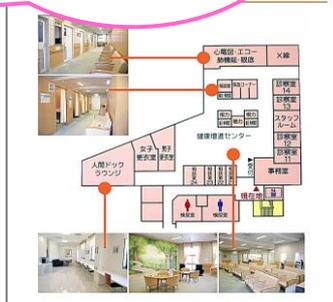


POINT! スマートフォンでもパソコンでも、大きなボタンで分かりやすく操作できます。

POINT! 人間ドック Web予約について、スマートフォンからさらに使い易くなりました。



施設や設備情報、プランや価格もしっかり表記！



予約可能日のカレンダー表示、申込み者入力欄など、以前からのWeb予約機能を引き継いで対応しております。

佐世保中央病院 健康増進センター 基本理念と基本方針

【基本理念】

受診者の健康を支援し、活力のある地域社会の実現に貢献します。

1. 生活習慣病の早期発見と予防の啓発に努め、健康の維持・増進をサポートします。
2. 検査技術や診断機器の精度向上を常に心がけ、質の高い健康診断を提供します。
3. 健康診断や保健指導を通して、受診者のライフスタイルを考えた継続的な支援を行います。
4. すべてのスタッフが相互に協力・連携して、受診者の皆様に満足いただけるサービスを提供します。
5. 健康診断業務で得られた個人情報の守秘義務と、受診者ご自身の知る権利を遵守します。

健康増進センター 診察担当医

	月	火	水	木	金
午前診察	常勤医 : 中尾・寺園 非常勤医 :	元永・原・草場・石嶋・吉川			
午後診察	※ 毎日2~3名の医師が担当いたします				
婦人科検診	石丸	石丸	石丸	石丸	石丸

健診に関するご予約・お問い合わせについて

☆健診をご希望の方は、**完全予約制**になっておりますので、健康増進センター窓口にお越しいただくか、お電話およびホームページからのご予約をお願い致します。

○お問い合わせ時間

月～金曜日 9:00～12:00 13:00～16:00

○休診日 土・日曜日、祝日 8月14日～15日（夏季） 12月30日～1月3日（年末年始）

【健康増進センター直通】

電話番号 (0956)33-5335

FAX番号(0956)33-5336

メールアドレス sch-kenkoh@hakujujikai.or.jp

右のQRコードをご登録してアクセスいただければ
当施設ホームページから人間ドックのご予約ができます。



編集後記

コロナウイルス感染蔓延による自粛の長期化や連日の戦火報道等で、不安な毎日をお過ごしのことと拝察いたします。ご自身の健康管理には充分ご留意ください。

今回は、腎がんについて、専門医師より報告いたしました。ご参考いただければ幸いです。

健康ワンダーランドの次回発行は、本年8月頃を予定しています。どうぞご期待ください。